

命にかかわる、性の「光と影」～3年生パパ・ママ講座より～

7月8日(月)の6校時に3年生が「パパ・ママ講座」に参加しました。講師は、「おかやま妊娠SOSしえと」の長谷川喜久美先生です。はせ川助産院の助産師をお務めです。私の印象に残っているのが、講演の後半にうかがった、A子・B子・C子のお話です。(A子とB子は親友です。)

A子：彼氏との間に赤ちゃんができました。A子は高校を退学して赤ちゃんを生みました。彼氏は高校生活を続け、卒業後に就職しました。就職後、彼氏との間に二人目も生まれました。今、二人で子育てし、互いの両親も、孫育てをしています。

B子：彼氏との間に赤ちゃんができました。彼氏は、「迎えに来る」と言ってくれました。彼氏の両親は「B子にも責任がある」と言いました。彼氏は迎えに来ませんでした。B子は別の男性との間に赤ちゃんができました。親友のA子が二人目を生んだことを支えに、一人で出産しました。生活が成り立たず、悲しい選択をしました。

C子：彼氏との間に赤ちゃんができました。妊娠中のC子は、その彼氏から暴力を受け、おなかを蹴られ、結局流産しました。C子は高校を再受験して合格し、さらに大学を卒業するなど、人生のやり直しをしていきました。

だれが幸せで、なにが不幸なのか。そんなことはおっしゃいませんでした。ただただ、

だれかに相談したり、だれかに救いを求めたりする。

なんとか学び直そうとしたり、なんとかやり直そうとしたりする。

そうすれば、幸せを感じることができる。幸せになることができる。

あきらめなければ、なんとかなる。

このことをみなさんに伝えたいとおっしゃっていました。



《ご講演の様子》



《赤ちゃん人形を抱っこする体験》

計画通りにいかないのが人生ですが、自分の思い描く人生にしようと努力すること、それがなかなかうまくいかなくても、けっしてあきらめず、だれかに相談したり、誰かに頼ったりすることが、幸せをつかむ秘訣なのかもしれません。

性教育の一環で開催した授業ですが、まさに「性は生」でした。